

正倉院文書写経機関係文書編年目録

—天平宝字五年—

稲田 奈津子

一 はじめに

本目録は、本誌第三号（一九九九年三月）より継続している正倉院文書写経機関係文書編年目録の第八回目にあたる。今回対象とするのは天平宝字五年（七六一）である。これ以前のもので未報告の年もあるが、先行して掲載する。本目録作成に至った経緯やその目的などについては、第三号を参照していただきたい。

二 凡例

- ・文書番号は原則として日付順に付した。
- ・文書番号には階層性を持たせている。単体の文書が集合して文書集合をなす場合、その集合に文書番号を付し、各文書には枝番号を付した。

- ・文書名の付け方については、基本的に公式令に則り、その文書の作成目的が明確になるように心がけた。したがって『大日本古文書』の文書名とは必ずしも同一ではない。題箋や文書冒頭に文書名がある場合には、それに基づいた。
- ・年月日の項には、その文書の作成年月日（帳簿の場合には開始年月日）を示した。（ ）は推定。
- ・写経事業の項には、その文書がどの写経事業に関する文書かを記した。写経と直接関係しない事業であっても、当該期の写経機関を考える上で重要な情報については、便宜この項に示したものがあ
- ・文書の機能・内容の項には、その文書の機能・内容について、できるだけ簡潔に記した。
- ・作成・発信・受信の項には、文書の作成・保管主体、または文書の発信者・受信者を示した。案文の場合には、想定される正文の受信者を（↓）という形で示した。
- ・大日古の項には、『大日本古文書』編年文書二十五巻における所在

を巻数と頁数によって「15—1」（十五卷一頁の意）のごとく示した。『大日本古文書』に収録されていないものは「未収」とした。

・文書の所在の項では、以下の略号を用いた。s 正集、z 続修、zk 続修後集、zb 続修別集、j 塵芥、zz 続々修。断簡番号は、東京大学史料編纂所編『正倉院文書目録』既刊部分（正集・塵芥）についてはそれに従い、未刊部分についてはマイクロフィルム紙焼写真に示された紙数番号を（～）で示した。

・次の項には、その文書が一次文書であるか二次文書であるかを記した。

・紙背の項には、紙背文書の作成年月日と文書名、（～）に『大日本古文書』での所在を示した。

・備考の項には、上記以外に担当者の気付いた留意点などを示した。端裏書や、八世紀当時および近代の編成時における往来軸・付箋の情報については必ず記すことにした。また正倉院事務所所蔵『正倉院御物目録』『未修古文書目録』による情報「飯田」を記した（本誌第八号凡例参照）。

・参考の項には、特に文書の内容に関して気がついたことを記した。

三 写経事業の概観

前年にひきつづき、忌日御齋会一切経書写がおこなわれている。本事業に関しては、山本論文に詳しい。四年六月七日の光明皇太后崩御、七月二十六日の七七歳を経て実施された本事業は、八月から翌年五月十日頃まで、東大寺写経所において作業がおこなわれた後、完成した一切経は周忌齋会場の法華寺へ搬入され、六月七日には新たに建設さ

れた阿弥陀浄土院で周忌齋が執りおこなわれた「山本・黒田」。

本事業は一貫して装束忌日御齋会司と坤宮官との共同事業であり、両機関からの料物供給を受けながら、造東大寺司写経所の主導で写経事業がおこなわれたと考えられる「稲田」。したがって、奉写一切経所が申請する料物等は、最終的には装束司・坤宮官を中心とした機関から供給されるのであるが、文書の発給先としては直属する造東大寺司であると理解した。

石山寺造営に関しては、福山・岡藤論文による詳細な復原研究がある。本事業は「写経事業」そのものではないものの、造石山寺所は造東大寺司の管下に置かれ、別当は安都雄足であった。彼は造東大寺司主典として東大寺写経所で写経事業を取り仕切った人物である。したがって写経事業とのかかわりも深く、目録にとることにした。

近江国保良宮造営にともない、本年末より開始された石山寺の増築工事は、六年八月までに仏堂・僧坊四棟・経藏（鐘楼を兼ねる）・法堂・食堂・厨・大炊屋・温室（湯屋）・仏師房・板屯屋・廁・椎（葺）屯藏・廐・借板屋三棟が造営された。これと並行して、安都雄足を別当とする石山寺奉写大般若経所も置かれ、写経所として経堂・経師房・盛殿などが建てられた「福山・岡藤」。

そのほかに、前年より続いている法華寺金堂造営関係の文書が、本年初頭に現れる。本事業も安都雄足が別当をつとめている。本格的な間写経の存在は窺えないが、「二二」綺下充帳によると、飛鳥命婦八月十六日宣による雑經三十三卷書写（二十三日に赤斑綺を下給）、内裏雑經十卷書写（九月四日に綺を下給）などが見え、散発的に小規模な写経がおこなわれていたようである。

四 個別文書の検討

〔一〕 本継文の構成については、図を参照のこと。

〔一一〕 右端が往来軸に巻きつく。本帳作成時に軸とともに見出しとして挿入されたか。

〔一二三、六〇八〕 写経事業のため文部省の成選・列見に参加できない者を、装束忌日御齋会司が文部省に伝えたもの。写経従事者に関する内容のため、本帳に案が残されたのであろう。山本氏はこれらを参考に、〔一一二〕も成選・列見のための報告書である可能性を述べる。

〔一二三〕 山本氏は〔一五七〕で遺紙を「大師宅」に返上していることから、宛所が「大師宅」である可能性を指摘しているが、しばらく造東大寺司としておく。

〔一二五〕 山本氏の指摘によると、五三七二巻を目標巻数として、正月二十五日付で〔五〕、ついで〔六〕の布施申請解案が作成されたが、二月に入り五二八二巻（一一一二）、五二五八巻（一一一四）と漸次目標巻数が減らされたため、五二五八巻を目標として改めて作成された布施申請解案が当該文書である。

〔一二七〕 前日付の〔八〕を草案として書き足したもの。

〔一二二〕 整った字で書かれ、安都雄足の自署もあるなど、当初は正文として作成されたものが、差出機関名と署名部分の不備から「不用」と記され、下書きに転用されたものであろう。日下の「造東大寺司主典正八位上安都宿祿」が抹消されて「案主散位従八位下上（馬養）」に訂正され、その奥に「河内国史生従七位上中臣丸

連」「別当造東大寺司主典正八位上安都宿祿」が加えられている。また差出は「東大寺奉写一切経所」に傍書して「忌日御齋会奉写一切経所」と記し、これらの訂正をふまえた正文が岡本院へと発給されたのであろう。

〔一二七、二九、三三〕 写経所からの縄・依薦の進上を伝える。〔一二四〕で装束司の口宣を受け、寺家（造東大寺司）からの借米を申請しており、この搬入用米俵に充当するためとの山本氏の指摘をふまえると、発給先は造東大寺司となる。

〔一四九〕 完成した一切経を嶋院へ運ぶ日に必要な雑物を請求する。二十四日付の正文の案であるが、同内容の解案三通が二十二日に作成され、それを下書きにして作成している。二十二日付解案は、〔一三〕↓〔二五〕↓〔二六〕の順に作成されたことが、訂正の書き入れから判断できる。

〔三〕 未修目録に「三嶋県主百兄謹解 天平宝字五年二月『請暇日事』同（巻）十九枚」とあることから〔三一五〕備考参照、目録段階で zz 三一四（一三）→（三一）が一連であったことが確認できる。〔二〕の構成をみると（図参照）、一次文書（紙背）には多くの請暇解が見られ、 α 宝字四年九月十三日～十八日（zz 三一四（一三）、z 二〇③、z 一九③、z 四一②、z 二〇④、z 一九④、zz 三一四（一三）と、 β 宝字五年正月十四日～二月二十七日（〔三〕（一二）とがまとまって現れ、これ以外にも四年十二月三日（z 二〇⑦）、同四日（zz 三一四（四））、五年正月十六日（〔四〕）、同二月十三日（〔二一〕）がある。おそらく既存の請暇解継文を、必要な分量ごとに切り取って利用し、再び貼り継いで〔二〕が作成されたのであろう。 α ・ β 以外の請暇解も、本来はこれらに継がれて

いた可能性がある。

〔九〕左端に一行「一切経有本无本目錄二月十一日申送案」とのみ記されており、文書の包紙であった可能性が考えられる。三月二十二日付の「二―四二」では、新たに写経を追加して「以前経論、並是旧元来无本、去天平勝宝六年入唐廻使所請来」としており、この前提となる目錄が二月十一日付で提出されたと推測される。

〔一三―一六〕「一三」・「一五」・「一六」の三通は、いずれも「二―四九」の草案であり、作成順に左（奥）から貼り継がれて文書集合をなし、そのまま二次利用されたと考えることも可能であろう。しかし「一五」の余白を利用して書かれた「一四」の左端に署名と思われる残画が残されており、署名部分が切り取られて「一三」と貼り継がれていることから、「一三」と「一五」「一六」が二次利用以前から貼り継がれていたとの確証はなく、本目錄では階層性をもたせることはしなかった。

〔一九・二〇〕宝字四年十二月三十日付と推測される造金堂所解（z 三六（一）、zz 四五―六（六）裏、z 三五（二）、z 三六（二）、z 三五（五）、（三）、（二）、（四）、zz 四五―五（一））（一五）に記される、「院中檜皮葺正藏」に納められた残物に、品名・数量がほぼ一致する「福山」。

〔二六〕黒田氏の指摘によると、本文書は、下道主が自ら作成した「造金堂所解」等の法華寺阿弥陀浄土院関係文書を、造石山寺所での公文類作成の手本として用いるように、石山寺造営のために出発する一行に進上した際の送状という。

〔二七・二八・三〇・三一〕岡藤氏は、「造石山院所蓄貯継文」として宝字五年十二月二十三日付造寺司牒（二二七）から六年十一月三十

日付石山院牒（zz 四三―一四（一））までの四十六通を含む長大な継文を復原されている。各種写本での注記を勘案して組み立てられた復原案には拠るべき点が多いが、宝字五年の年紀を持つ末尾として復原されている十二月二十七日付丹波広成解（三三一）と、六年冒頭の正月七日付造寺司牒（s 五①（2））が接続していたとする積極的根拠に乏しいため、今回は復原継文すべてを掲載することはやめ、宝字五年の年紀を持つものだけに留めた。今後の復原研究の進展が待たれる。

〔三三・三四〕石山寺に増築された建物のうち、法堂は法備国師奉入の三丈殿、食堂は信楽宮辺の藤原豊成より買得した五丈殿を移築したものであった。〔三三―二〕・〔三四〕は、それぞれ三丈殿・五丈殿の丈尺を勘検したもので、石山寺造営の指揮を執っていた良弁が、近江国分寺（甲賀寺）に勘注を命じ、これに三綱が連署を加えたものと考えられる「福山」。〔三三―一〕は、三丈殿壞運の功銭・功食を申請したもので、壞運使と考えられる僧三名が連署している。余白部分に「依大德宣充銭参貫式伯拾壹文、米参斛参斗捌升、奉宣史生師」との追記のある通り、二月八日には良弁の宣によって銭・米が下給されている（二二九）、宝字六年二月九日付造石山寺所銭米充用注文（zz 四五―一（三三））。

五 おわりに

本稿では、天平宝字五年の写経機関関係文書を整理した。包括的で優れた先行研究の多い範囲でもあり、すでに指摘されている事実についてではなるべく説明を省略したので、詳しくは参考文献を参照してい

ただきたい。写経事業と直接かわからない石山寺造営関係文書も含めるなどしたため、目録に載せるか否かの基準が曖昧になった点もあり、載せるべくして落としているものもあるかと思う。ご指正いただければ幸いです。

参考文献

- 飯田剛彦『正倉院事務所所蔵『正倉院御物目録 十二（未修古文書目録）』』（一）～（三）（『正倉院紀要』一二五、二〇〇一～二〇〇三年）
- 稲田奈津子「奈良時代の忌日法会―光明皇太后の装束忌日御齋会を中心に―」（西洋子・石上英一編『正倉院文書論集』青史出版、二〇〇五年。初発表二〇〇四年）
- 岡藤良敬『日本古代造営史料の復原研究』法政大学出版局、一九八五年
- 黒田洋子「正倉院文書の一研究―天平宝字年間の表裏関係から見た伝来の契機―」（『お茶の水史学』三六、一九九二年）
- 福山敏男「奈良時代に於ける法華寺の造営」「奈良時代に於ける石山寺の造営」（『日本建築史の研究』桑名文星堂、一九四三年。初発表一九三二年・一九三三年）
- 同「石山寺・保良宮と良弁」「石山寺の創立」（『寺院建築の研究』中、中央公論美術出版、一九八二年。初発表一九七三年・一九七九年）
- 山下有美『正倉院文書と写経所の研究』吉川弘文館、一九九九年
- 山本幸男「天平宝字四年～五年の一切経書写」（『写経所文書の基礎的研究』吉川弘文館、二〇〇二年、初発表一九八八年）

二次

ZZ 3 3 7	ZZ 3 3 6		Z 20 7		Z 20 3	Z 19 3	Z 41 2	Z 20 4	Z 19 4		ZZ 3 4	
正月 25日 〔6〕												
〔1 15〕												
7	6			5	4	3				2	1	
空	? 〔7〕	4 年12月3日請暇解		空	4 年12月4日請暇解	4 年9月13日請暇解		4 年9月16日請暇解	4 年9月15日請暇解	4 年9月17日請暇解	4 年9月18日請暇解	空
〔1 14〕	〔1 13〕			〔1 11〕	〔1 9〕 〔10〕	〔1 8〕		〔1 6〕	〔1 5〕		〔1 2〕	〔1 1〕

<div><div>z</div><div>22</div><div>⑧</div></div>																																			
35	34	33	32	31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8																															
4 年 6 月 8 日 歴 名 (後半)	正月 16 日 (4)	2月 13 日 (11)	4年 9月 27日 召文	2月 27 日 (12)	2月 23 日 (3 15)	2月 22 日 (3 14)	2月 22 日 (3 13)	2月 21 日 (3 12)	正月 24 日 (3 11)	正月 24 日 (3 10)	正月 24 日 (3 9)	正月 21 日 (3 8)	正月 20 日 (3 7)	正月 19 日 (3 6)	正月 19 日 (3 5)	正月 18 日 (3 4)	正月 15 日 (3 3)	空	正月 14 日 (3 2)	正月 16 日 (3 1)	2月 11 日 (9)	空	2月 6 日 (8)	空											
(1 40 3 41)	(1 39 38)	(1 38 37)	(1 37 36)	(1 37 36)	(1 22 37)																		(1 18 21)		(1 17 16)		(1 16 15)								

38 37 36

51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39				38	37	36
?	4月22日	4月22日	4月22日		空	空	空	空	4年7月21日 歴名	4年7月22日 歴名	4年7月22日 歴名	? 写御書所移		4年6月8日 歴名(前半)			正月25日	
(17)	(16)	(14)	(15)	(13)													(5)	
(1 56 57)		(1 50 55)			(1 49)	(1 48)	(1 47)			(1 44 46)				(1 43)			(1 42 43)	

- * 文書の所在の項に数字のみ記すものは、zz3—4での紙数をあらわす。
- * () は目録番号を示す。
- * 「三」は二次利用前に貼り継がれていたこと、「二」は二次利用に際して貼り継がれたことを示す。

大 日 古	文書の所在	次	紙 背	備 考	参 考
15 - 1 ~ 5, 4 - 485, 503, 15 - 5 ~ 8, 83, 9 ~ 15, 19 ~ 39, 242, 39 ~ 46, 102 ~ 103, 46 ~ 58	zz3-4<1> ~ <2>, z19④裏, z20④裏, z41②, z19③裏, z20③裏, zz3-4<3> ~ <5>, z20⑦裏, zz3-4<6> ~ <7>, zz3-3<6> ~ <7>, zz3-4<8> ~ <31>, z22⑧裏, zz3-4<32> ~ <38>, zz37-9<31>, zz3-4<39> ~ <51>			右端に往来軸「五年正月/移牒案」(表裏同文)あり	
15 - 1	zz3-4<1>	1	空		
15 - 1 ~ 3	zz3-4<2>	2	宝字4.9.18紀主人請暇解(大日古14-443)		
15 - 3	zz3-4<2>, z19④裏	2	宝字4.9.18紀主人請暇解(大日古14-443)、宝字4.9.18史戸赤麻呂請暇解(大日古4-432)	<2>紙左下に附箋「一」「卅六ノ十九」	
15 - 3 ~ 5	z19④裏, z20④裏	2	宝字4.9.18史戸赤麻呂請暇解(大日古4-432)、宝字4.9.17秦家主請暇解(大日古4-431)		
15 - 5, 4 - 485	z20④裏, z41②	2	宝字4.9.17秦家主請暇解(大日古4-431)、宝字4.9.16某請暇解(大日古14-442~443)	二紙にまたがり、裏に「五百九十四両」(大日古14-443)	
4 - 503	z19③裏	2	宝字4.9.15山部吾方麻呂請暇解(大日古4-430)		
15 - 5 ~ 6	z20③裏	2	宝字4.9.16美努人長請暇解(大日古4-430~431)		
15 - 6	z20③裏, zz3-4<3>	2	宝字4.9.16美努人長請暇解(大日古4-430~431)、? . 9. 13某請暇解(大日古14-444)	<3>紙右下に附箋「卅六ノ十九」「二」	
15 - 6 ~ 7	zz3-4<4>	2	宝字4.12.14若倭部国杵請暇解(大日古14-449)		
15 - 7	zz3-4<4>	2	宝字4.12.14若倭部国杵請暇解(大日古14-449)		
15 - 7 ~ 8	zz3-4<5>	1	空		
15 - 8, 83, 9	zz3-4<5>, z20⑦裏, zz3-4<6>	2	空、宝字4.12.13巨勢村国請暇解(大日古4-458)、〔7〕	<5>紙左下に附箋「二」「卅六ノ十九」、未修目録948「(巻)五枚 往来付」(<1> ~ <5>)、<6>紙右下に附箋「卅五ノ十」「三」	
15 - 9	zz3-4<6>	2	〔7〕		
15 - 10 ~ 11	zz3-4<7>	1	空		
15 - 11 ~ 14	zz3-3<6> ~ <7>	2	〔6〕	<6>紙右下に附箋「廿九ノ二」「三」、未修目録639「二枚」(<6> <7>)、<7>紙左下に附箋「三」	

目 録

天平宝字五年（761）

文書番号	文 書 名	年 月 日	写経事業	文書機能・内容	作成・発信→受信
1	奉写一切経所解移牒案	宝字5. 正. 6～5. 9. 1	忌日御斎会一切経		写経所
1-1	奉写一切経所移案	(宝字5. 正)	忌日御斎会一切経		写経所
1-2	奉写一切経所解案	宝字5. 正. 6作成	忌日御斎会一切経	豎子・召継舎人等の行事	写経所(→造東大寺司)
1-3	装束忌日御斎会司牒案	宝字5. 正. 12作成	忌日御斎会一切経	列見不参の報告	装束忌日御斎会司(→文部省)
1-4	奉写一切経所解案	宝字5. 正. 12作成	忌日御斎会一切経	驅使の散役単功報告	写経所(→造東大寺司)
1-5	奉写一切経所解案	宝字5. 正. 12作成	忌日御斎会一切経	雑用料銭の申請	写経所(→造東大寺司)
1-6	装束忌日御斎会司牒案	宝字5. 正. 14作成	忌日御斎会一切経	列見不参の報告	装束忌日御斎会司(→文部省)
1-7	装束忌日御斎会司牒案	宝字5. 正. 15作成	忌日御斎会一切経	列見不参の報告	装束忌日御斎会司(→文部省)
1-8	装束忌日御斎会司牒案	宝字5. 正. 15作成	忌日御斎会一切経	列見不参の報告	装束忌日御斎会司(→文部省)
1-9	奉写一切経所解案	宝字5. 正. 22作成	忌日御斎会一切経	驅使の返上	写経所(→造東大寺司)
1-10	奉写一切経所解案	宝字5. 正. 23作成	忌日御斎会一切経	仕丁の粮の返上	写経所(→造東大寺司)
1-11	奉写一切経所奉請文案	宝字5. 2. 4作成	忌日御斎会一切経	経巻の奉請	写経所(→?)
1-12	奉写一切経所解案	宝字5. 2. (4～11)作成	忌日御斎会一切経	筆墨菲価銭の申請	写経所(→造東大寺司)
1-13	奉写一切経所解案	宝字5. 2. 11作成	忌日御斎会一切経	料紙の借用申請	写経所(→造東大寺司)
1-14	奉写一切経所解案	宝字5. 2. 12作成	忌日御斎会一切経	経紙の申請	写経所(→造東大寺司)
1-15	奉写一切経所解案	宝字5. 2. 13作成	忌日御斎会一切経	経師等布施物の申請	写経所(→造東大寺司)

15-14~15	zz3-4<8>	1	空	26日に奉上、3月11日に返送の 追筆あり	
15-19~23	zz3-4<9>~<11>	2	[8]、空	<11>紙中央に附箋「三」、未修 目録912「(壺巻)六枚」(<6>~ <11>)	
15-23~24	zz3-4<12>~<13>	2	[9]、[3-1]		
15-24~25	zz3-4<13>~<14>	2	[3-1~2]	<13>紙右下に附箋「廿六ノ四」、 (紙背に関して)未修目録512 「(壺巻)十九枚」(<13>~<31>)	
15-25	zz3-4<14>	2	[3-2]		
15-25~26	zz3-4<14>	2	[3-2]		
15-26~27	zz3-4<15>	1	空		
15-27~28	zz3-4<16>	2	[3-3]		
15-28	zz3-4<16>~<17>	2	[3-3~4]		
15-29~30	zz3-4<17>~<18>	2	[3-4~5]		
15-30	zz3-4<18>~<19>	2	[3-5~6]		
15-30	zz3-4<19>	2	[3-6]		
15-30~31	zz3-4<19>	2	[3-6]		
15-31	zz3-4<19>	2	[3-6]		
15-31	zz3-4<19>~<20>	2	[3-6~7]		
15-32~35	zz3-4<20>~<24>	2	[3-7~11]		
15-35~36	zz3-4<24>	2	[3-11]		
15-36~37	zz3-4<25>~<27>	2	[3-12~13]		
15-37	zz3-4<27>~<30>	2	[3-13~14]		
15-38	zz3-4<31>	2	[3-15]		
15-38	zz3-4<31>	2	[3-15]		
15-38~39, 242, 39	zz3-4<31>, z22⑧裏, zz3-4<32>	2	[3-15]、[12]、宝字4・9・27奉写一 切経所経師等召文(大日古14- 444~445)	<31>紙左下に附箋「五」「廿六 ノ四」、<32>紙右下に附箋「十 二帙二巻」「六」、(紙背に関し て)未修目録162「二枚」	
15-39~40	zz3-4<33>	2	[11]		
15-40	zz3-4<34>	2	[4]	未修目録764(31-6)「一枚」	
15-41	zz3-4<35>	2	宝字4.6.8文部省官人歴名(後半 部)(大日古14-347)		
15-41~42	zz3-4<35>	2	宝字4.6.8文部省官人歴名(後半 部)(大日古14-347)	<35>紙右下に附箋「八」、左下 に附箋「廿五帙八巻」、未修目 録500「一枚」	

1-16	奉写一切経所奉請文案	宝字5.2.15作成	忌日御齋会一切経	本経の奉請	写経所(→?)
1-17	奉写一切経所解案	宝字5.2.7作成	忌日御齋会一切経	二月大料雑物の申請	写経所(→造東大寺司)
1-18	奉写一切経所解案	宝字5.2.18作成	忌日御齋会一切経	二月料雑物の追加申請	写経所(→造東大寺司)
1-19	奉写一切経所解案	宝字5.2.18作成	忌日御齋会一切経	火頭月養の申請	写経所(→造東大寺司)
1-20	奉写一切経所解案	宝字5.2.18作成	忌日御齋会一切経	仕丁月養の申請	写経所(→造東大寺司)
1-21	奉写一切経所奉請文案	宝字5.2.21作成	忌日御齋会一切経	本経の奉請	写経所(→?)
1-22	東大寺奉写一切経所牒案	宝字5.2.21作成	忌日御齋会一切経	本経の奉請	東大寺奉写一切経所(→岡本院)
1-23	奉写一切経所解案	宝字5.2.22作成	忌日御齋会一切経	火頭養物の申請	写経所(→造東大寺司)
1-24	奉写一切経所解案	宝字5.2.22作成	忌日御齋会一切経	借米の申請	写経所(→造東大寺司)
1-25	奉写一切経所解案	宝字5.2.23作成	忌日御齋会一切経	仕丁火頭の歴名	写経所(→造東大寺司)
1-26	奉写一切経所解案	宝字5.2.23作成	忌日御齋会一切経	仕丁月養の申請	写経所(→造東大寺司)
1-27	奉写経所縄進上文案	宝字5.2.25	忌日御齋会一切経	縄の進上	写経所(→造東大寺司)
1-28	奉写経所依薦縄進上文案	宝字5.2.26	忌日御齋会一切経	依薦・縄の進上	写経所(→造東大寺司)
1-29	奉写経所縄進上文案	宝字5.2.30	忌日御齋会一切経	縄の進上	写経所(→造東大寺司)
1-30	奉写一切経所解案	宝字5.3.1作成	忌日御齋会一切経	召継等の返上	写経所(→造東大寺司)
1-31	奉写一切経所解案	宝字5.3.1作成	忌日御齋会一切経	三月小料雑物の申請	写経所(→造東大寺司)
1-32	奉写経所縄進上文案	宝字5.3.3作成	忌日御齋会一切経	縄の進上	写経所(→造東大寺司)
1-33	奉写一切経所解案	宝字5.3.4作成	忌日御齋会一切経	膳部等の返上	写経所(→造東大寺司)
1-34	写一切経所解案	宝字5.3.9作成	忌日御齋会一切経	人の返上	写経所(→造東大寺司)
1-35	奉写一切経所奉請文案	宝字5.3.8作成	忌日御齋会一切経	本経の奉請	写経所(→?)
1-36	奉写一切経所解案	宝字5.3.8作成	忌日御齋会一切経	仕丁三月糧米の申請	写経所(→造東大寺司)
1-37	奉写一切経所解案	宝字5.3.20作成	忌日御齋会一切経	駆使の散役・返上 夾名	写経所(→造東大寺司)
1-38	奉写一切経所解案	宝字5.3.4作成	忌日御齋会一切経	経師料塩の申請	写経所(→造東大寺司)
1-39	奉写一切経所解案	宝字5.3.20作成	忌日御齋会一切経	布施料布折留の報告	写経所(→造東大寺司)
1-40	奉写一切経所解案	宝字5.3.22作成	忌日御齋会一切経	火頭二月養の申請	写経所(→造東大寺司)
1-41	奉写一切経所解案	宝字5.3.22作成	忌日御齋会一切経	坤宮仕丁二月養の申請	写経所(→造東大寺司)

15-42~46	zz3-4<36>~<38>	2	[5]		
15-46, 102~103	zz3-4<38>, zz37-9<31>	2	[5]、宝字4.6.8文部省官人歴名<前半部>(大日古14-346)	<38>紙左下に附箋「九」、<31>紙右下に附箋「卅二□二」、(紙背に關して)未修目録801「片紙」	
15-46~47	zz3-4<39>	2	写御書所移案(大日古13-336)	右下に附箋「十」「廿六ノ八」、未修目録521「(壺巻)十三枚」(<39>~<51>)	
15-47	zz3-4<39>	2	写御書所移案(大日古13-336)		
15-47~49	zz3-4<40>~<43>	2	宝字4.7.22校生舎人歴名(大日古14-360)、同日校生歴名(大日古14-359)、宝字4.7.21供奉校生舎人歴名(同)、空		
15-49~50	zz3-4<44>	1	空	整った字、本来正文として作成されたか	
15-50~51	zz3-4<45>	1	空		
15-52~53	zz3-4<46>	1	空		
15-53	zz3-4<47>	2	[13]		
15-53~54	zz3-4<47>	2	[13]		
15-54~55	zz3-4<48>~<49>	2	[15]、[14]、[13]		
15-55~56	zz3-4<49>	2	[15]、[14]		
15-56	zz3-4<49>~<50>	2	[16]、[15]、[14]		
15-56~57	zz3-4<50>	2	[16]		
15-57	zz3-4<51>	2	[17]		
15-57~58	zz3-4<51>	2	[17]		
4-485~486	zz18-3<31>裏	1	宝字6.正造石山寺所解移牒符案(大日古15-218~219)		
15-89, 88, 4-486, 15-90, 4-487~488, 15-90~91, 4-488~489, 488, 15-100, 101, 100~101, 4-494	zz3-4<13>~<14>裏, <16>~<31>裏				
15-89	zz3-4<13>裏	1	[1-19~18]		
15-88	zz3-4<14>裏	1	[1-21~19]		
4-486	zz3-4<16>裏	1	[1-24~23]		
15-90	zz3-4<17>裏	1	[1-25~24]		
4-487	zz3-4<18>裏	1	[1-26~25]		
4-487~488	zz3-4<19>裏	1	[1-30~26]		
15-90	zz3-4<20>裏	1	[1-31~30]		
15-91	zz3-4<21>裏	1	[1-31]		
4-488~489	zz3-4<22>裏	1	[1-31]		

1-42	奉写一切経所解案	宝字5.3.22作成	忌日御斎会一切経	写経の追加	写経所(→造東大寺司)
1-43	奉写一切経所解案	宝字5.3.23作成	忌日御斎会一切経	標紙料紙の申請	写経所(→造東大寺司)
1-44	奉写一切経所解案	宝字5.4.1作成	忌日御斎会一切経	仕丁四月粮米の申請	写経所(→造東大寺司)
1-45	奉写一切経所解案	宝字5.4.1作成	忌日御斎会一切経	逃走火頭の報告	写経所(→造東大寺司)
1-46	奉写一切経所解案	宝字5.4.2作成	忌日御斎会一切経	四月小料雑物の申請	写経所(→造東大寺司)
1-47	奉写一切経所解案	宝字5.4.9作成	忌日御斎会一切経	駆使丁の返上	写経所(→造東大寺司)
1-48	写経所申送文案	宝字5.4.14作成	忌日御斎会一切経	成巻・題経の材料・人員の請求	写経所(→造東大寺司)
1-49	奉写一切経所解案	宝字5.4.24作成	忌日御斎会一切経	奉請日雑物の申請	写経所(→造東大寺司)
1-50	奉写一切経所解案	宝字5.4.24作成	忌日御斎会一切経	題師等食料米の申請	写経所(→造東大寺司)
1-51	写一切経所解案	宝字5.4.26作成	忌日御斎会一切経	布被の返上	写経所(→造東大寺司)
1-52	奉写一切経所解案	宝字5.5.2作成	忌日御斎会一切経	雑用乗米の報告	写経所(→造東大寺司)
1-53	奉写一切経所解案	宝字5.5.2作成	忌日御斎会一切経	五月料米塩の申請	写経所(→造東大寺司)
1-54	奉写一切経所解案	宝字5.5.3作成	忌日御斎会一切経	仕丁の返上	写経所(→造東大寺司)
1-55	奉写一切経所解案	宝字5.5.9作成	忌日御斎会一切経	装演の上日・行事の報告	写経所(→造東大寺司)
1-56	奉写一切経所解案	宝字5.5.10作成	忌日御斎会一切経	簪緒の申請	写経所(→造東大寺司)
1-57	奉写一切経料遺紙返上文案	宝字5.9.1作成	忌日御斎会一切経	一切経料遺紙の返上	写経所(→大師宅)
2	造物所返抄	宝字5.正.14作成	法華寺金堂造営	銭の検収	造東大寺司造物所→造金堂所
3	請暇解継文	宝字5.正.14~5.2.23	忌日御斎会一切経	請暇不参解継文	
3-1	能登忍人解	宝字5.正.16作成	忌日御斎会一切経	請暇不参解	能登忍人→写経所
3-2	陽胡田次解	宝字5.正.14作成	忌日御斎会一切経	請暇不参解	陽胡田次→写経所
3-3	十市倭麻呂解	宝字5.正.15作成	忌日御斎会一切経	請暇不参解	十市倭麻呂→写経所
3-4	高橋息嶋解	宝字5.正.18作成	忌日御斎会一切経	請暇不参解	高橋息嶋→写経所
3-5	韓国毛人解	宝字5.正.19作成	忌日御斎会一切経	請暇不参解	韓国毛人→写経所
3-6	中臣諸立解	宝字5.正.19作成	忌日御斎会一切経	請暇不参解	中臣諸立→写経所
3-7	小治田弟成解	宝字5.正.20作成	忌日御斎会一切経	請暇不参解	小治田弟成→写経所
3-8	韓国千村解	宝字5.正.21作成	忌日御斎会一切経	請暇不参解	韓国千村→写経所
3-9	三尾子牛甘啓	宝字5.正.24作成	忌日御斎会一切経	請暇不参啓	三尾子牛甘→写経所

4-489	zz3-4<23>裏	1	[1-31]		
4-488	zz3-4<24>裏	1	[1-32~31]		
15-100	zz3-4<25>裏	1	[1-33]		
15-101	zz3-4<27>~<26>裏	1	[1-34~33]		
15-100~101	zz3-4<30>~<28>裏	1	[1-34]		
4-494	zz3-4<31>裏	1	[1-37~35]	未修目録512(26-4)「(宕巻)十九枚」	
15-40~41	zz3-4<34>裏	1	[1-39]		
4-490~493	zz3-4<38>~<36>裏	1	[1-43~42]		[1-15]の草案①
15-91~93	zz3-3<7>~<6>裏	1	[1-15]		[1-15]の草案②
未収	zz3-4<6>裏	1	[1-13~12]	「奉写一切経所解申」の文字のみ	
15-15~18	zz3-4<10>~<9>裏	1	[1-17]		[1-17]の草案
未収	zz3-4<12>裏	1	[1-18]	「一切経有本无本目録二月十一日申送案」の文字のみ	[1-42]に関わるか
15-99	z30⑬	1	空		
15-99	zz3-4<33>裏	1	[1-38]		
4-494~495	z22⑧	1	[1-37]		
15-61~62	zz3-4<48><47>裏	1	[1-52~50]		[1-49]の草案①
15-61	zz3-4<49>裏	1	[1-54~52]	左端に署名部分の残画あり(未収)	[1-48]の画籤の朱
15-60~61	zz3-4<49>裏	1	[1-54~52]		[1-49]の草案②
15-59~60	zz3-4<50>裏	1	[1-55~54]		[1-49]の草案③
15-58~59	zz3-4<51>裏	1	[1-57~56]		
15-120	zz47-4<1>	1	空		
4-505~506	zz18-3<23>裏(紙焼写真は<24>に誤る)	1	宝字6. 正造石山寺所解移牒符案(大日古15-199~200)		[20]の草案
25-304~305	zz45-3<16>裏	1	宝字6造石山寺所雑材并檜皮及和炭納帳(大日古15-284~285)	右下に附箋「写了」、裏に附箋「廿七ノ四」「三」、(紙背に関して)未修目録544「一枚」	
15-122~124, 120~122	zz44-7<6>~<8>	1	神護元. 3.20市使解案、同3.24経所解案(大日古17-8~9)、空	<6>右下に附箋「四」「廿五ノ九」、<7>左下に附箋「五」「廿八ノ十」、未修目録602「一枚」、<8>裏に附箋「第十五帙第七卷」、(紙背に関して)未修目録239「一枚」	
15-124~125	zz18-3<25>裏(紙焼写真は<26>に誤る)	1	宝字6. 正造石山寺所解移牒符案(大日古15-201~203)		
4-508	z25⑥	1	[29]	奥の余白に「人々借用銭云々」の書き入れあり	

3-10	三国広山解	宝字5. 正. 24作成	忌日御齋会一切経	請暇不参解	三国広山→写経所
3-11	万昆公麻呂解	宝字5. 正. 24作成	忌日御齋会一切経	請暇不参解	万昆公麻呂→写経所
3-12	三尾子牛甘解	宝字5. 2. 21作成	忌日御齋会一切経	請暇不参解	三尾子牛甘→写経所
3-13	春日伯解	(宝字5.) 2. 22作成	忌日御齋会一切経	請暇不参解	春日伯→写経所
3-14	勝宅足解	(宝字5.) 2. 22作成	忌日御齋会一切経	請暇不参解	勝宅足→写経所
3-15	三嶋縣主百兄解	宝字5. 2. 23作成	忌日御齋会一切経	請暇不参解	三嶋縣主百兄→写経所
4	安宿大広解	(宝字5.) 正. 16作成	忌日御齋会一切経	請暇不参解?	安宿大広→写経所
5	奉写一切経所解案	宝字5. 正. 25作成	忌日御齋会一切経	経師等布施物の申請	写経所(→造東大寺司)
6	奉写一切経所解案	宝字5. 正. 25作成	忌日御齋会一切経	経師等布施物の申請	写経所(→造東大寺司)
7	奉写一切経所解案	?	忌日御齋会一切経	?	写経所(→?)
8	奉写一切経所解案	宝字5. 2. 6作成	忌日御齋会一切経	二月大料雑物の申請	写経所(→造東大寺司)
9	一切経有本无本目録 二月十一日申送案	(宝字5.) 2. 11作成	忌日御齋会一切経	?	?
10	西院政所解	(宝字5?) 2. 11作成	法華寺金堂造営	銭の検納・返抄	西院政所→東大寺(造東大寺司)
11	巨勢村国解	宝字5. 2. 13作成	忌日御齋会一切経	請暇不参解	巨勢村国→写経所
12	賀茂馬養解	宝字5. 2. 27作成	忌日御齋会一切経	遭親父喪の報告	賀茂馬養→写経所
13	奉写一切経所解案	宝字5. 4. 22作成	忌日御齋会一切経	奉請日装束物の申請	写経所(→造東大寺司)
14	奉写一切経所解案	宝字5. 4. 22作成	忌日御齋会一切経	漆工の申請	写経所(→造東大寺司)
15	奉写一切経所解案	宝字5. 4. 22作成	忌日御齋会一切経	奉請日装束物の申請	写経所(→造東大寺司)
16	奉写一切経所解案	宝字5. 4. 22作成	忌日御齋会一切経	奉請日装束物の申請	写経所(→造東大寺司)
17	応定人并驅使夫等注文	宝字5・4?	忌日御齋会一切経	?	?
18	井上新成状?	宝字5. 6. 10作成		?	井上新成→?
19	檜皮葺倉収納雑物検注文	(宝字5.) 6. 12作成	法華寺金堂造営	檜皮葺倉収納雑物検注文	造東大寺司
20	檜皮葺蔵収納雑物検注文	(宝字) 5. 6. 26作成	法華寺金堂造営	檜皮葺蔵収納雑物検注文	造東大寺司
21	綺下充帳	宝字5. 6? ~ 6. 2. 2		綺の下充	写経所
22	賀茂馬養啓	宝字5. 8. 27作成		御田を切るべき事	賀茂馬養→?
23	丸子人主解	宝字5. 8. 29作成		月借錢解	丸子人主→造東大寺司?

4-509	zz18-3<24>裏(紙焼写真は<25>に誤る)	1	宝字6. 正造石山寺所解移牒符案(大日古15-200~201)		
15-129	zz43-9<3>裏	1	[29]		
4-523	z47⑩	1	宝字6造石山寺所雜材并檜皮及和炭納帳(15-287~288)	右端に習書「啓啓啓啓啓」(未収)	
4-525~526	s5①(1)	1	空	紙面に「東大寺印」21顆	
4-526	zz43-22<2>	1	空	左下に附箋「廿五帙三卷二」	
4-532~536, 5-355~360, 15-442~444, 5-360~362, 15-450~452, 446~450, 5-362~369, 369~371, 未収, 15-444~446	zz43-13<1>~<2>, z38<1>~<2>, z48⑦~⑥裏, zb48①(2)~(1)裏, z25⑥裏, zz43-9<8>, <3>~<7>, zb32裏, z29⑤裏, zz43-9<2>	2	宝字2. 3. 17/19画師行事功錢注進文(大日古4-265~268)、宝字6. 5造東大寺司解案(5-195~201)、(宝字)4. 8. 11臺和麻呂錢進上文(14-442)、(宝字)6. 4. 3山作所解(15-454~455)、斤兩注文(25-372)、供養料雜物進上啓(15-376)、[25]、宝字4. 12. 30?法華寺造金堂所解案(16-274~275)、[23]、宝字6三神像円鏡下絵(5-204図版)、宝字6八花鏡下絵(未収)、?. 4. 14僧誠愍狀(25-333)、?. 4. 20秦家主啓(25-344)、宝字6. 3. 7造石山寺所解案(5-137~139)、空	題箋軸「造寺料/錢用帳」(右軸)、zz43-13<1>左下に附箋「□」「一ノ十二」、未修目録12「帋卷三枚」(12-1「往來付二枚」、同<2>右下に附箋「二」、左下に附箋「一ノ十二」、zz43-9<3>右下に附箋「三」「卅一ノ二」、未修目録725「三枚」(731「一八日下錢帳拾文右請藥十開直一枚」→<5>)、同<6>右下に附箋「五」、z29⑤裏左端に「廿三日下錢壹伯貳拾陸文 雜用内 一斗一升別六文一斗二升別五文」(未収)、zz43-9<2>右下に附箋「廿六ノ六」、(紙背に関して)未修目録518「一枚」	
4-526~527	z27①	1	空		
4-527~528	z41⑤	1	空		
4-537~539	zz43-14<1>	1	空	題箋軸「造寺料雜物納」(表裏同文、右軸か、未収)、左下に附箋「一ノ十二」、未修目録12「帋卷三枚」(12-2「無往來一枚」)	宝字5. 12. 28部分は[27]記載に対応
5-74~75, 4-528~529, 5-104~105	zz45-1<1>~<3>			題箋軸「屋壞運」(表裏同文、右軸か)	
5-74~75	zz45-1<1>	1	空	奥の余白に「依大徳宣充錢云々」の書き入れあり	
4-528~529	zz45-1<2>	1	空		
5-104~105	zz45-1<3>	1	空		
25-305~307	z43⑨	1	空	端裏書「北殿破運文」	
15-132~134	z28⑪	1	宝字7. 9. 5造東寺司解案(大日古16-421~422)		
15-88~89	zz24-7<6>	1	空		

24	買進物注文	宝字5. 9. 25作成		買進物注文	大石阿古麻呂→造東大寺司？
25	額田部筑紫状	宝字5. 11. 9作成		買炭の事	額田部筑紫→上吉成
26	下道主啓	宝字5. 12. 1作成		公文の進上	下道主→□万呂
27	造寺司牒	宝字5. 12. 23作成	石山寺造営	雜物下充、丹波広成不参向の報告	造東大寺司→造石山寺司
28	六人部荒角錢送進文	宝字5. 12. 24作成	石山寺造営	錢の送進	六人部荒角〔東大寺造物所領〕→造石山寺司
29	造寺料錢用帳	宝字5. 12. 24～7. 正. 30	石山寺造営	錢用帳	造石山寺司
30	甲可山作所解	宝字5. 12. 26作成	石山寺造営	雜物の進上	甲賀山作所→造石山寺司
31	丹波広成解	宝字5. 12. 27作成	石山寺造営	甲賀山作所神祭雜用料の申請	丹波広成→造石山寺司
32	雜物収納帳	宝字5. 12. 28～6. 2. 26	石山寺造営	雜物の収納	造石山寺司
33	屋壊運繼文	宝字5. 12. 28～6. 2. 9作成	石山寺造営	屋壊運	
33-1	信楽殿壊運所解	宝字6. 正. 28作成	石山寺造営	屋(三丈殿)壊運の功錢・功食の申請	信楽殿壊運所→造石山寺司
33-2	矢口吉人解	宝字5. 12. 28作成	石山寺造営	屋(三丈殿)丈尺の勘注	矢口吉人(甲賀寺)→造石山寺司
33-3	造石山寺所錢米充用注文	宝字6. 2. 9作成	石山寺造営	屋(三丈殿・五丈殿)壊運の錢米等の下充	造石山寺司
34	矢口公吉人解	宝字5. 12. 28作成	石山寺造営	屋(五丈殿)丈尺の勘注	矢口吉人(甲賀寺)→造石山寺司
35	造東大寺司上日帳	？		上日帳	造東大寺司
36	鯨恵麻呂解	？		不参鯨	鯨恵麻呂→造東大寺司